

生物多様性は人々の生活に非常に重要な役割を果たしています。生物多様性は実は我々の健康で幸せな生活をもたらしてくれるものです。スーパーマーケットで売られているものは生物多様性の恩恵からきています。

私たち日常生活をしているときは生物多様性からすごく大きなものをもらっている。そうすると、例えば里山の生物多様性が下がってしまうと何が起こるかということ、もしかしたら風邪の特効薬になるものがなくなっちゃうかもしれない。もしかしたらおいしかったものがなくなっちゃうかもしれない。もしかしたらこれ食べたら頭が良くなるものがなくなっちゃうかもしれない。記憶力がよくなる薬があったらほしいですね。今スーパーに行くと記憶ガムが売っていますよね。記憶力の低下を抑えると。買っちゃいましたよ。そういうことから考えると私たちの日常生活は生物多様性からもたらされています。

それから空気を浄化してくれる放線菌は、生物多様性のネットワークから生まれています。例えば森林浴っていう行事がありますけれども、森林浴をすると何がいいかっていうと、本当にいいのは清浄な空気を吸えるところです。森に行くと空気がきれいです。

また、自然災害を抑える機能もあります。遺伝的多様性が高いということは病原菌から生物を守って、環境変動への適応力を高めることができると言われています。大事なことですよね。生物多様性を守るにはどうしたらいいか。実は里山の管理なんて本当は理論が50年以上前にできています。

中間攪乱説というのが50年位前に生態学者によって提唱されています。植生遷移という考え方です。

谷地からいろいろな植物がどんどん進んでいくと、最終的にはこの辺りは照葉樹林になります。照葉樹林になると何が起こるかということ、生物多様性が減少しちゃうと。それは日本だけではなくて、ありとあらゆるところで起きています。植生遷移の初期段階も生物多様性が少ない。だけど、中ぐらいの攪乱があると遷移が元のところに戻って、その部分だけ生物多様性が最も高くなるというのが、**中間攪乱説**と呼ばれているものです。

(配布資料)

横軸に攪乱の頻度。攪乱っていうのは何かということ、木を切ったりとか、土を掘り返したりとか、そういうことをする度合いです。縦軸に種の数をとると、適度に攪乱されている方が生物多様性は高くなるわけです。だから里山がどういう状況かっていうと、木を切ったりとか草をとったりすることで、こちらが里山の生態系になるわけですね。ここの状況を生み出したっていうのが私の考えです。

生物多様性が減っちゃうと、なんで減っちゃうかということ、何も使わないでいると、

落ち葉がたまってきて暗いから何も生えていない状況になっちゃうと。何も生えていない状況だからこそ土砂崩れが起きたりするわけです。

今では一生懸命草刈りしています。本当はこの草刈りが草を持っていき、畑に行ったらしいです。

例えば化学肥料は今すごく高騰しています。この中で農業をやっている方もおられると思いますけど、なんで高騰しているかといいますと、リンが高騰しています。リンはこのところ資源が減ってきて足りないの、化学肥料が作れなくなっています。

リンって何でできているか知っていますか？ リン鉱物って何からとられているか知っていますか？ リン鉱物って化石です。リン鉱物って鳥のウンコですよ。

そのリン鉱物が足りないせいで化学肥料が上がっているの、こういったものを利用して畑で使うようにすれば、私たちもうちょっとうまく生活できるんじゃないかと思えます。

たとえば、こうやって薪をとったりすれば、生物の多様性は上がるということが必要というわけです。薪をとって何をしているかといいますと、これ、知っている人いますかね？ 土木の人いましたよね・・・確か。これは枝を使って川の底に埋めています。武田信玄の時代に河川の氾濫を抑えるために粗朶を使って、この枝を編んでこの枝の中に石を詰めて、河川の深堀を抑える粗朶単床を作っていました。実は河川も生物多様性を使って昔はメンテナンスされていたわけですね。これ何がメリットかという、腐っても大丈夫で、腐ったら自然に還るからです。

今環境問題ですごく問題になっているのは、マイクロプラスチックっていう問題がありますよね。いま、河川をメンテナンスするときに何を使っているかという、プラスチックフィルムです。プラスチックフィルムで抑えて緑地化をしているんです。

そうしたらやっぱりマイクロプラスチックは出ます。けどこういったものを使えば自然環境に優しい。ただこれは豊田にあるコメジっていう会社しか作れなくて、作れる会社がほとんどありません。YouTube で作り方がのっていますけど、コメジがこれを作れなくなると困るということで作り方を動画で撮ったりしていますけど、こういったものを使って安全な生活を生み出すことができたわけです。

それからこれは柳枝工といって、竹で粗朶を編んだ後に柳の木を植えていって法面（のりめん）を安定化させるという工法です。こういった植物を使ってやる方法もあるわけです。炭を、つかった・・・とか。

木炭自動車っていうのが、昔、あったんです。木炭で自動車走らせる。日本の技術かって他の海外にはなかったですけど、戦争のときに石油も石炭もなくなっちゃった

から、木炭で自動車を走らせていました。それくらいエネルギーとしては森林を利用できていた。

現在の里山の崩壊は何が起きているかというと、生活環境が変わってしまって、里山からエネルギーを採ることができなくなってしまったということから、生物多様性が減少しているのが現状です。

だから私たちは里山にどんどん入って、キノコでも山菜でもどんどん採ってください。採ったらダメだって、いう人がたくさんいますけど、県の持ち物ならいいです。だってみんな税金払っているから。それくらいもらいましょうよ。それは、本当はだめですけどね。人の山はだめですよ。松茸が出るような山は、山止めをしています。もちろんだめです。昔はこの海上の森、松茸たくさん採れたらしいですよ。みんなで木を切ったら松茸生えますよね。そういうことをやっていかないと生物多様性は減少してしまうのではないかとされています。

私、いまある会社の里山の評価を手伝っています。すごくいいところなんです。トヨタ自動車も里山を持っていてトヨタの森というのですが、全然ダメ。何がダメって造園してるから。作り込んでるんですよ。作り込んでるのではなくて、間伐したりいろいろなことをしている、別の子会社の里山があって。

キンランが一面黄色くなるくらい生えています。カタクリも生えてるし、ササユリも生えてるし、ちょっとした工夫で管理するとこういうふうになる。ものすごくきれいな里山が得られるということですね。こういう里山になってくれたらいいな、そしたらギフチョウも来るかもしれないし。やりすぎると外来種が入っちゃいます。